

## 長岡市長賞

### 百年後も安心して暮らせる長岡を目指して

新潟大学附属長岡中学校

三年 小林 芙実香

世界的に有名なオーケストラとバレエの共演、プロの劇団の素晴らしいミュージカル、本格的なプログラミングに自然体験・・・。

これらは全て、私が学校の授業で実際に体験したことです。今まで私は、このようなことがほぼ全て税金で賄われている、ということは少しも考えたことがありませんでした。でも一つ一つの体験の密度が濃く、心の底から楽しかったです。

長岡市では『熱中！感動！夢づくり教育』というプロジェクトを行っています。実際に体験できるプログラムがいくつもあり、今までにたくさんさんの体験を通して「多様性」「平和」「防災」などを学んできました。どうしてこのような活動が実現できているのでしょうか。

実は、長岡市の今年度『新しい米百俵』による人材育成と未来への投資』では、約一九九億円の資金が使われています。これは市内小・中・高校生一人あたり約四九万円ということになります。中学校三年間、一人百万円以上の税金がかかっているのに、長岡市はさらに私たち若い世代に税金をかけて下さっています。どうして私たちにたくさん税金をかけて

いるのか疑問に思い、長岡の教育について調べることになりました。

今から百五十年前、長岡は戊辰戦争の戦火に呑み込まれていました。長岡藩は旧幕府軍側で戦いましたが敗れてしまい、食べ物にさえ困る状況でした。そんな時三根山藩から米が百俵届き、喜んだ武士たちでしたが、当時藩の「大参事」という役職であった小林虎三郎は、その米百俵を学校の設立に使ったのです。武士たちは反発しました。ですが虎三郎は、「国が興るのも、街が栄えるのも、ことごとく人にある。食えないからこそ、学校を建て、人物を養成するのだ。」と言い、長岡の未来のための選択をしました。

そして百五十年後の今、虎三郎の考え方、想いが長岡の人たちに代々受けつがれて、今では私たちの未来、長岡の未来への希望が、税金という形で私たちに託されているのです。私はこのことを知り、複雑な気持ちになりました。私は本当にこの期待に応えられるのか、少し不安です。

ですが私は、米百俵の精神が根付いた長岡が大好きです。そして大人になっても長岡市に住み続けたいと思っています。中学生の今、コロナ禍で大変なこともあります。夢を実現させるためにやるべきことたくさんあります。目標に向かってがんばることは、私にとって長岡市に恩返しをする一つの手段です。また、しっかりと税金を納めることで、これからも若者たちや小中学生がこれからもたくさんさんの体験で夢を描けると思っています。

教育の町・長岡は、みんなから集められた税金で成り立っています。私は、未来の子どもたちが夢を描ける長岡が楽しみです。

百年後も安心して暮らせる長岡を目指して。